

カラマツ害虫

ミスジツマキリエダシャクの生物的防除



雄の卵に産卵するタマゴバチの雌成虫

ミスジツマキリエダシャクはカラマツの葉を食べる害虫で、時にはカラマツの木を枯らすこともあります。このシャクガの卵にタマゴバチという体長1mmほどの小さなハチが寄生することがわかりました。しかし、自然状態での寄生率は高くありません。そこで、このハチを室内で増殖し、シャクガの被害が予想されたカラマツ林に1ha当たり1～7万頭放飼しました。その結果、放飼区は未放飼区より寄生率が増加しました。

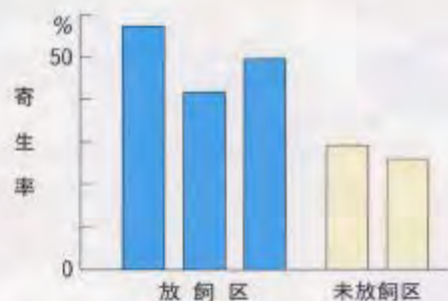
現在、さらに防除効果を高めるため、タマゴバチの増殖技術や放飼方法の改良を進めています。



ミスジツマキリエダシャクの幼虫



顕微鏡で見たタマゴバチの雄成虫



タマゴバチの放飼区(3ヵ所)と未放飼区(2ヵ所)におけるミスジツマキリエダシャクの卵の寄生率